

令和 8 年度（2026 年度）

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

**博士前期課程（A 日程）
学生募集要項**

**一般選抜
特別選抜（社会人）
特別選抜（外国人）**

【連絡先】

〒670-0092

姫路市新在家本町 1-1-12

兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課

電話 (079) 292-1513 FAX (079) 292-1530

問合せ受付時間 平日 9:00～17:00

目 次

	ページ
I. 令和8年度4月入学募集要項	1～5
1 募集人員	
2 出願資格及び条件	
3 出願受付期間	
4 出願手続	
5 選抜方法	
6 学力試験・口述試験日程等	
7 学力試験・口述試験会場	
8 合格発表	
9 入学手続	
10 入学料及び授業料等	
11 注意事項	
12 障がいのある者等への配慮	
13 不測の事態（交通機関の乱れ、災害発生等）について	
14 長期履修制度について	
(参考)	
・ 出願手続に必要な書類等一覧	
・ 出願資格認定について	
II. 環境人間学研究科（博士前期課程）教員表	6～9
【その他】	
試験会場案内図	10
【出願手続に関する提出書類等】	
① 入学願書	(様式 1)
② 博士前期課程における研究計画書	(様式 2)
③ 承諾書（一般・外国人）	(様式 3)
④ 承諾書（社会人）	(様式 4)
⑤ 出願資格認定審査申請書	(様式 5)
⑥ 研究・活動報告書（その 1）	(様式 6)
⑦ 研究・活動報告書（その 2）	(様式 7)
⑧ 研究・活動内容確認書	(様式 8)

教育ポリシー（大学院環境人間学研究科博士前期課程） 抜粋

1. 育成する人材像

環境人間学研究科では、次のような人材を育成することを目指す。

- ① 環境と人間に関する学際的、融合的なアプローチを通じて、新たな環境創造を担う高度な識見と、環境に関する諸問題を体系的・総合的に分析・解明できる研究力を有する人材
- ② 人間学の基本に立ちながら、21 世紀の自然環境、科学技術、地域社会、人間、あるいはその関係性はどうあるべきかという視点で考究し、社会のニーズに応える高度な専門知識と問題発見能力を備えた人材

2. アドミッション・ポリシー

①入学前に必要な能力や適性など

（博士前期課程）

＜求める学生像＞

- 1) 環境に関する諸問題に関心を持ち、専門職業人としての基礎的な学問を学び、研究を行う意欲がある人
- 2) 環境に関する諸問題に対して、より広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって、体系的な問題発見・分析能力、および技術を身に着けることを目指している人
- 3) 環境に関する諸問題に対応する方策を具体的に考察し、知的好奇心を持って積極的・活動的に取り組む行動力がある人
- 4) 環境と人間との相互作用として、人間の健康や文化の多様性を探求し、環境共生社会の実現に向けた具体的な方策を考えようとしている人

＜アドミッション・ポリシー＞

1) 知識・技能

出身学部、職場などで学んできた、社会のニーズに応える高度な専門的知識と問題発見能力を駆使して、現代社会が抱える様々な課題を、解決する体系的・総合的に分析・解明できる能力を有する人

2) 思考力・判断力・表現力

出身学部で深めた学識や社会人としての経験や仕事を通して、環境人間学の大切さを認識し、その実践力を向上させていくための思考力、判断力、表現力を身に付けることができる人

3) 主体性・多様性・協働性

人間社会のニーズに応える諸課題の解決に対して、環境人間学を積極的に応用し、環境と人間に関する学際的、融合的なアプローチを通じてその方策を見出すために、主体性、多様性、協働性を身に付けることができる人

②入学後に求めること・持つべき目的、意欲など

(博士前期課程)

<求める学生像>

これらの分野で、次代を担う環境人間学に関する知識・技能の両者を複眼的に兼ね備え、環境共生社会の実現に質する学際的な研究や技術開発に主体的に貢献できる技術者、高度専門職業人及び研究者となるための勉学、研究意欲にあふれた人

③入学前に学習しておくことが期待される内容

(博士前期課程)

環境人間学研究科博士前期課程で学ぶために必要な学士課程卒業相当の基礎学力と、幅広い教養及び一定程度の専門性

④入学選抜における評価方法、その比重等

(博士前期課程)

本研究科では、国内外の大学で、理系学部のみでなく、文系学部で学士を取得した人、高等専門学校専攻科を修了した人、社会人として本研究科の研究課題と関係のある業務に携わってきた人など、広い分野からの学生を求めている。

本研究科では、入学者選抜の基本方針として、受験機会の複数化を保証し、本研究科の教育理念・目標に合致した学生の選抜を行っている。博士前期課程では、特別選抜（推薦）、一般選抜、特別選抜（社会人、外国人）などの選抜を実施している。入学者の選抜は、外国語運用能力、学力試験及び口述試験、面接、研究計画書など出願書類により、志願者の能力や資質に関する総合的な評価に基づき、熱意と可能性を有する多彩な人材の選抜を実施している。

I. 令和8年度大学院環境人間学研究科博士前期課程の学生を次のとおり募集する。

(令和8年4月入学)

A日程	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
1 募集人員	環境人間学専攻 A・B日程合わせて20名程度	環境人間学専攻 若干名	環境人間学専攻 若干名
2 出願資格 及び条件	(1)出願資格 次の各号のいずれかに該当する者 ① 大学を卒業した者及び2026年3月31日までに卒業見込みの者 ② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者 ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者 ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑧ 文部科学大臣の指定した者（2026年3月31日までに該当する見込みの者を含む。） ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者 ⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者 ⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者 ⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までに22歳に達した者	(1)出願資格 本学環境人間学研究科指導教員の推薦があった者で、2026年4月1日現在において24歳以上で2年以上の勤務経験又は社会経験を有し、その経験を大学院での研究水準において深化させることを目指す者で、次の各号のいずれかに該当する者 ① 大学を卒業した者及び2026年3月31日までに卒業見込みの者 ② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者 ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者 ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑧ 文部科学大臣の指定した者（2026年3月31日までに該当する見込みの者を含む。） ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者 ⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者 ⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者 ⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	(1)出願資格 日本国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当し、入学後「留学」の在留資格が取得できる者、かつ、公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N2以上、又は独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」200点以上を取得した者（受験科目は「日本語」） ① 大学を卒業した者及び2026年3月31日までに卒業見込みの者 ② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者 ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者 ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者 ⑧ 文部科学大臣の指定した者（2026年3月31日までに該当する見込みの者を含む。） ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者 ⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者 ⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者 ⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までに22歳に達した者

A 日程	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
2 出願資格及び条件	⑨～⑫に該当する者は、出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、5ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。 * この試験は外国人学生、帰国子女を含む。 (2) 出願条件 出願者は、希望する研究指導教員とあらかじめ協議の上、出願すること。日本に在住しない外国人が出願するにあたっては、諸々の手続（出願、受験、入学、入国等）について、希望する研究指導教員と入念に事前打ち合わせを行うこと。	社会人として出願する者はすべて出願資格認定の事前審査を行うので、5ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。	⑨～⑫に該当する者は、出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、5ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。
3 出願受付期間	令和7年7月22日（火）から令和7年7月31日（木）まで（必着・消印不可） 受付時間：平日の午前9時30分から午後4時まで。土曜・日曜・祝日は受け付けない。		
4 出願手続	(1) 出願方法 入学考査料を支払い、出願書類等を持参または郵送してください。 出願書類等を郵送される場合は、出願書類等を角形2号サイズの封筒に入れ、封筒の表に「環境人間学研究科出願書類在中」と朱書きし簡易書留速達扱いで郵送してください。 [出願書類の提出先] 〒670-0092 姫路市新在家本町1丁目1-12 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課 (2) 入学考査料 入学考査料30,000円を以下の振込口座にお振込ください。 銀行・支店名 三井住友銀行 姫路支店 種別・口座番号 普通 9 3 2 9 5 1 4 口座名義 ヒョウゴケン(ダイ)ヒョウゴケンリツダイガク 振込金額 3 0, 0 0 0 円 振込依頼人名 出願者本人の氏名であることをご確認のうえお振込ください。 ※振込手数料は出願者の負担となります。 ※「振込金受領書」「ATM利用明細」等の原本は出願者が保管してください。振込が確認できない場合は原本の提出を求める場合があります。 ※納付された入学考査料は原則返還しません。		
	(3) 出願書類等		
	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2） ③ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3） ④ TOEIC、TOEFL-iBT(Home editionを除く。出願スコアは、Test Data Scoreのみ認め、My Best Scoreは認めない。）のうちいずれかをあらかじめ会場受験した上で、その成績証明書（公式認定証）のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が令和4年7月31日～令和7年7月31日までのもの。） ⑤ 外国人留学生は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2）その他あれば研究業績論文 ③ 英文による研究計画書（様式2に準じたもの） ④ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式4） ⑤ 外国人は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2） ③ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3） ④ TOEIC、TOEFL-iBT(Home editionを除く。出願スコアは、Test Data Scoreのみ認め、My Best Scoreは認めない。）のうちいずれかをあらかじめ会場受験した上で、その成績証明書（公式認定証）のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が令和4年7月31日～令和7年7月31日までのもの。） ⑤ 日本語能力認定書のコピー又は日本留学試験成績証明書のコピー [日本留学試験に関する指定条件] 2024年度の第1回・第2回のいずれか1回の受験をしていること。（受験科目は「日本語」）
	(共通) ・出身大学の卒業証明書（卒業見込証明書）又は学位授与証明書及び成績証明書（和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。） ・入学考査料支払時の「振込金受領書」「ATM利用明細」等の写し(A4サイズの用紙にコピーしたもの) ・受験票返送用レターバックライト（郵便局等でレターバックライト(青)を購入し、お届け先(TO)欄に①郵便番号、②住所、③氏名を明記し、二つ折りにして出願書類に同封すること。） ただし、令和7年8月4日(月)～8月8日(金)に受験票を学務課に取りに来る者は提出しなくてよい。 *事前審査の際に提出した書類は提出しなくてよい。		
5 選抜方法	入学者の選抜は、学力試験、口述試験及び出願書類を総合評価して行う。 英語外部試験においては、TOEIC又はTOEFLのスコアを研究科独自の換算基準により換算し、外国語（英語）の得点とする。また、英語外部試験において最低基準点を設けることがある。		
6 学力試験口述試験日程等	日時・試験科目 令和7年8月20日（水） ・専門科目（小論文形式） 10:00 ～ 11:30 ・口述試験 13:00 ～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 (注) 英語試験の代わりに外部試験を使用する。	日時・試験科目 令和7年8月20日（水） ・専門科目（小論文形式） 10:00 ～ 11:30 ・口述試験 13:00 ～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 (注) 英語試験は課さない。	日時・試験科目 令和7年8月20日（水） ・専門科目（小論文形式） 10:00 ～ 11:30 ・口述試験 13:00 ～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 (注) 英語試験の代わりに外部試験を使用する。

7 学力試験及び口述試験会場

姫路市新在家本町1丁目1番12号 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス

詳細は当日、F棟前掲示板にて通知する。10ページの試験会場案内図等を参照すること。

8 合格発表

令和7年8月28日（木）午後2時

兵庫県立大学環境人間学部・研究科のホームページ（<https://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html>）に掲示するとともに、合格者には合格通知書等を送付する。

なお、合否結果に関する電話等による問合せには応じない。

9 入学手続

手続期間 令和8年3月上旬（入学手続書類は2月下旬に送付予定）

※入学金は入学手続期間にお支払いいただきます。

10 入学料及び授業料等

（令和7年4月1日現在）

区分		納付時期	令和8年3月	7月	10月	計
入 学 料			282,000 円	—	—	282,000 円
授 業 料			—	267,900 円	267,900 円	535,800 円
諸経費	本学部卒業生		24,000 円	—	—	24,000 円
	他大学卒業生		66,000 円	—	—	66,000 円

【留意事項】

- ・入学料及び授業料の額や徴収方法等は、兵庫県公立大学法人授業料等に関する規程によります。
なお、当該規程の改正により、入学料及び授業料の額や徴収方法等が変更される場合があります。
- ・授業料の改定が行われた場合には、改定時から新しい授業料の額を適用します。
- ・令和6年度から実施している「授業料等無償化制度」により、入学料及び授業料が免除になる場合があります。最新の情報は下記HPでご確認ください。

＜兵庫県HP「県立大学の無償化」＞

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk35/kennritudaigakumushouka.html>



11 注意事項

(1) 口述試験に含まれる「プレゼンテーション」について

プレゼンテーションの内容は、博士前期課程の研究に関することで、時間は5分程度とし、原則としてパソコン（以下、PC）を使用して実施してください。

試験当日に発表用のデータが入ったUSBメモリを持参し、そのデータを用いてプレゼンテーションを行ってください。試験開始前に、作動確認を行います。

データはオフラインで発表できる内容で作成してください。トラブルが起きた場合を想定し、プレゼン資料を紙に印刷して持参したり、自分のPCを持参したりして、各自で対策をとるようにしてください。

PCは原則大学が用意したPC（Windows11, PowerPoint2024）を使用していただきますが、トラブルが発生した場合は持参したPCの使用を認めます。

(2) 出願者は、希望する研究の指導教員とあらかじめ協議の上、出願してください。

(3) 授業はすべて日本語で行われるので、外国人学生で日本語の能力が十分でない者は、日本語の予備教育を受けておくことが望ましい。外国人学生は、在学中の学費・生活費等について、自ら責任を持って準備してください。

12 障がいがある者等への配慮

入学を志願する者で、障がいを有する者等、受験及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある者は、学務課にあらかじめ電話でお問合せください。

所定の相談申請書（医師の診断書等を添付）が提出された後、配慮内容等を決定します。必要な場合は志願者又はその立場を代弁しうる出身学校関係者等と面談を行います。相談申請書提出期限は令和7年6月27日（金）午後4時までです。

※上記期限を超えた場合であっても、ご事情があれば相談を受付けます。

13 不測の事態（交通機関の乱れ、災害発生等）について

- (1) 試験当日、台風や地震等不測の事態により交通機関が途絶したり遅延した場合、状況によっては試験時間を繰り下げたり、試験日を変更するなどの措置をとることがあります。
- (2) そのような事態が発生したときは、午前8時以降環境人間学部のホームページ上に掲載するので確認してください。（<http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html>）
- (3) 問合せは兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課（TEL 079-292-1513）まで

14 長期履修制度について

この制度は、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象としています。

事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。本制度を利用したい方は、出願前に希望する指導教員と相談してください。

参考 出願手続に必要な書類等一覧

	一般選抜	特別選抜 (社会人)	特別選抜 (外国人)
(1) 入学願書	○ (様式1)	○ (様式1)	○ (様式1)
(2) 研究計画書	○ (様式2)	○ (様式2)	○ (様式2)
(3) 研究計画書 (英文)	-	○ (様式2に準じたもの)	-
(4) 研究指導教員の承諾書	○ (様式3)	○ (様式4) ※出願資格認定 審査で提出	○ (様式3)
(5) 住民票	外国人のみ	外国人のみ	-
(6) TOEIC又はTOEFL-iBT (Home editionを除く。)成績証明書のコピー	○	-	○
(7) 日本語能力認定書のコピー又は日本留学試験成績証明書のコピー	-	-	○
(8) 出身大学の卒業(見込)証明書及び成績証明書	○	○	○
(9) 入学考査料支払時の「振込金受領書」「ATM利用明細」等の写し(A4サイズ用の紙にコピーしたもの)	○	○	○
(10) 受験票返送用レターパックライト (注)	○	○	○

(注) 郵便局等でレターパックライト(青)を購入し、お届け先(T0)欄に①郵便番号、②住所、③氏名を明記し、二つ折りにして出願書類に同封すること。ただし、令和7年8月4日(月)～8月8日(金)に受験票を学務課に取りに来る者は提出不要。

出願資格認定について

(1) 事前審査

一般選抜の出願資格⑨～⑫、特別選抜(外国人)の出願資格⑨～⑫に該当する者及び特別選抜(社会人)が出願する場合は、出願に先立ち出願資格認定審査を実施する。

下記の書類を希望する研究指導教員に提出し、あらかじめ協議し審査を受けた上で、令和7年6月25日(水)～7月4日(金)(土・日・祝日を除く)までに、姫路環境人間キャンパス学務課まで提出すること。郵送の場合は、簡易書留速達郵便(締切当日必着)とし、封筒に「博士前期課程出願資格事前審査書類在中」と朱書きすること。

- ・ 出願資格認定審査申請書(本学所定の様式5)
- ・ 本学環境人間学研究科指導教員の承諾書(社会人学生のみ、本学所定の様式4)
- ・ 卒業証明書(最終出身学校) ※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 成績証明書(最終出身学校) ※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 研究・活動報告書(その1)(本学所定の様式6)
- ・ 研究・活動報告書(その2)(本学所定の様式7)
- ・ 研究・活動内容確認書(本学所定の様式8)
- ・ 審査結果通知用レターパックライト(郵便局等でレターパックライト(青)を購入し、お届け先(T0)欄に①郵便番号、②住所、③氏名を明記し、二つ折りにして出願書類に同封すること。)

(2) 出願手続出願資格認定の審査結果は文書で令和7年7月11日(金)までに本人あて通知する。認定された者は、願書受付期間中に所定の書類を整え提出し、出願手続をとること。(2ページ参照)

Ⅱ. 環境人間学研究科(博士前期課程)教員表

*印は、研究指導教員

(令和7年4月1日現在)

部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
Ⅰ 人間環境部門	* 有満 秀幸	微生物学	食の安全性を脅かすヒトや家畜の病原菌の病原因子に関する研究、微生物の有効利用に関する研究	生命環境特論
	石坂 朱里	食品機能学	野菜や果物に含まれるフラボノイドの生体内動態と生理機能性に関する研究	食品科学特論
	* 伊藤 美紀子	臨床栄養学、代謝栄養学	栄養が強く関わる疾患の予防・改善を目指した栄養療法のエビデンス探索。特に腎疾患、サルコペニアに関する研究。はりま姫路総合医療センターとの共同研究も実施予定。	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 乾 美紀	多文化共生教育、マイノリティの教育	文化的に多様な背景を持つマイノリティの子どもたちの教育問題と教育支援に関する研究	多文化共生教育特論
	* 井上 靖子	臨床心理学、分析心理学	心の諸問題に対する深層心理学的分析及びイメージ、からだ、想像力を手がかりとした心理臨床実践研究。	臨床心理学特論
	* 内田 勇人	小児保健学、老年学	子どもの発達と健康、若年者・高齢者に対するヘルスプロモーションに関する研究	健康発達特論
	* 尾崎 公子	教育学	学校づくりとまちづくりの両観点を踏まえた地域教育政策に関する研究	地域教育政策特論
	* 加藤 陽二	生化学、食品化学	老化や疾病に深く関連した「活性酸素」による生体傷害の機構解明とその予防	生命環境特論
	* 金子 一郎	分子制御栄養学、ビタミン学	各ライフステージや生活環境における栄養素の消化吸収、代謝、排泄の変化と分子メカニズムに関する研究。健康長寿のための栄養学研究。	生命環境特論
	小村 智美	微生物学、免疫栄養学	モデル生物を用いた抗老化作用に寄与する食品因子の探索と機序解明	生命環境特論
	島田 良子	調理学、栄養生理学	食品の物性・嗜好性に関する研究、難消化性成分の機能性に関する研究	ライフステージ栄養学特論
	* 高橋 綾子	アメリカ文学、アメリカ文化、環境文学	アメリカ文学・文化における環境と人間に関わる研究、アメリカ現代詩研究、環境文学研究	アメリカ研究特論
	* 竹内 和雄	生徒指導	学校における具体的な生徒指導事案について、実践をベースに考察	生徒指導実践特論
	田中 更沙	臨床栄養学、代謝栄養学	ミネラルが生体に及ぼす影響の研究、特にリフィーディングシンドロームに関する研究	実践栄養学特論
	* 鄭 成	歴史学・異文化交流	現代中国の対外交流史、知識人の精神史	比較言語・文化特論
	* 寺西 雅之	文体論、英語教育・学習論	文体論を活用した文学・言語・コミュニケーション研究及び英語教育	環境英語表現特別演習
	* 中出 麻紀子	公衆栄養学	成人の食習慣に関する調査研究、食環境整備に関する研究	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 永井 成美	栄養教育、栄養生理学	食教育プログラム・教材の開発と評価に関する研究 食事と健康に関する栄養生理学的研究	ライフステージ栄養学特論

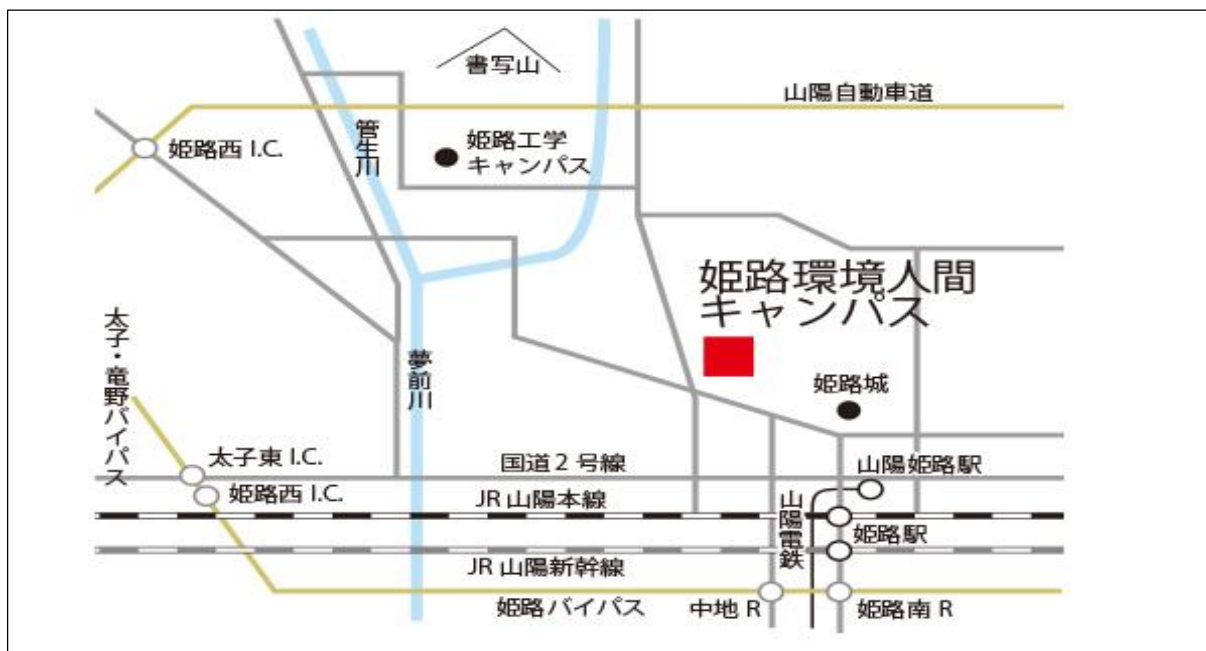
部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
	柳 楽 有里	アメリカ文学、アメリカ文化	アメリカ文学作品に描かれる人種・ジェンダー・階級から読み解くアメリカ文化の研究	英語圏文化研究特論
	西村 洋平	哲学・倫理学	西洋古代の哲学・倫理学の研究と、それに基づいて現代の社会問題や人間のあり方について考察	人間学特論
	* 野村 健	生物物理学、運動生理学	機械受容チャネルのゲーティング機構に関する研究 体力測定機器の開発及びトレーニング効果に関する研究	トレーニング特論
	半澤 史聡	栄養生化学、時間栄養学	摂食タイミングと末梢組織の時計・代謝に関する研究	ライフステージ栄養学特論
	* 藤原 敬介	言語学	南アジアおよび東南アジア地域のチベット・ビルマ系民族にかんする言語記述と歴史言語学的研究	言語学特論
	保坂 裕子	生涯発達心理学、文化歴史的活動理論	子どもの発達に関わる活動システムに関する研究	生涯発達心理学特論
	* 村上 明	食品機能学	植物由来の生理機能性成分（ファイトケミカル）の作用分子メカニズムに関する研究	食品科学特論
	* 森 寿仁	運動生理学、トレーニング科学	子ども～アスリート～高齢者における効果的な健康・スポーツトレーニング方法の開発	生涯スポーツ教育特論
	山口 裕毅	教育哲学・教育思想史	教育の倫理性に関する研究、英国における教育実践に関する調査研究	教育原論特論
	* 吉田 優	臨床栄養学、代謝栄養学	オミックス解析を用いた炎症性疾患、代謝性疾患の病態解明ならびに新規治療法の確立	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 吉村 美紀	食品プロセス科学、食品物性	食品の物性と嗜好性、食品のテクスチャー・コントロール、高齢者用食品と増粘多糖類のレオロジーの研究	食品科学特論、臨床食環境栄養特論
Ⅱ 社会環境部門	* 井関 崇博	社会学	環境・組織・文化のプロモーションにおけるメディア制作・運営・戦略に関する研究	環境社会学特論
	* 宇高 雄志	住宅計画	アジアにおける人間居住と生活空間のデザイン	住宅計画特論
	* 内平 隆之	居住デザイン・集落居住	地域の居住可能性を豊かにするデザイン及びプロジェクトの実践に関する研究	地域プロジェクト特論
	* 宇野 康司	地質学	中生代以降の東アジアにおける地球環境変遷	環境動態解析学特論
	* 太田 尚孝	都市計画学	わが国の持続可能な都市の発展に資する計画制度や計画技術、プランナーのあり方に関する研究	都市計画特論
	* 大橋 瑞江	森林生態学	森林生態系を構成する生物・非生物要因の相互作用、人間活動と森林の環境形成機能との関わりを研究する	森林生態学特論
	* 奥 勇一郎	応用気象学	地球温暖化による極端気象・気候ハザード評価、ヒートアイランド現象	大気科学特論

部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
II 社会環境部門	* 糟屋 美千子	言語社会学、メディア・ディスコース分析	メディア・ディスコースが現代社会の維持・変容に与える影響、及びその分析手法についての研究	言語社会分析特論
	風間 健宏	水圏環境学	ため池など小規模湖沼の水質や物質循環、生物生産に関する諸課題に対し、化学・生物プロセスを切り口とした研究	水圏環境学特論
	金 政一	建築環境工学	建物の熱性能向上、自然エネルギーの活用、省エネ改修、ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の評価	住環境学特論
	* 木村 敏文	画像工学、生態画像解析	昆虫を対象とした行動解析支援プログラム開発	環境画像解析特論
	* 木村 玲欧	防災心理学、防災教育学	災害・防災をテーマにした、安全・安心な社会環境を実現するための心理・行動、社会システム研究	防災心理・行動科学特論
	荘所 直哉	建築構造学、木質構造	木質構造の耐震性に関する実験的研究ならびに耐震設計法の構築に向けた研究	建築防災学特論
	* 杉山 武志	人文地理学	地域コミュニティの創造に向けた社会経済地理学的研究	地域コミュニティ特論
	* 竹端 寛	福祉社会学	福祉現場における脱施設化や脱管理・支配、権利擁護とエンパワメント、持続可能な地域福祉のあり方、およびオープンダイアログや対話的文化に関する研究	福祉社会学特論
	* 中桐 斉之	生態情報学	モデリングとシミュレーションによる生物環境問題や社会問題に関する研究、携帯端末によるユーザインターフェースの研究	生態情報学特論
	* 中嶋 一憲	環境経済学	環境経済モデルによる政策評価のためのシミュレーション分析、および環境評価手法による環境の経済的価値評価に関する研究	環境経済・政策特論
	増原 直樹	環境政策論	地方自治体における環境関連条例・計画の策定プロセス分析、およびSDGsをはじめとする指標を用いた資源ネクサス（連環）解析に関する研究	環境経済・政策特論
	* 水上 優	建築論・建築設計学	建築設計行為における思索と制作の連関に関する建築論的研究	建築・インテリア設計特論
	* 三田村 哲哉	建築史・意匠学	建築史において高評を得た秀作を通して、建築美を生み出す造形原理を解明する研究	建築意匠特論
	* 三宅 康成	農村計画学・農業土木学	農山村地域における農村計画手法の開発・提案、および土地利用、都市・農村交流に関する研究	農村計画特論
	* 安枝 英俊	建築計画学	少子高齢社会・ストック型社会・環境配慮型社会に対応した建築計画に関する研究	建築計画特論
	* 山瀬 敬太郎	緑化工学	自然災害リスクを低減させる生態系管理に関する研究	生態工学特論
III	* 赤澤 宏樹	緑地計画学・造園学	緑環境や暮らしの表出を中心とした景観づくり、公園を中心としたまちづくりを通じた、人と自然が共生する環境創出の実践・研究	ランドスケープ計画特論
	* 池田 忠広	古爬虫両棲類学	小型爬虫両生類（カエル・トカゲ・ヘビ）の現生種、ならびに化石を対象とした骨学及び分類学的研究	古生物学特論

部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
Ⅲ 共生 博物 部門	* 石田 弘明	植生学、 保全生態学	森林群落、特に人間との関わりの深い照葉樹林、ブナ林、里山林の 生物多様性とその保全・再生にする研究	植生学特別演習
	* 大平 和弘	環境計画学・造 園学	人と自然がうまく調和した地域固有の風景を保全・創成するため の、景観づくりやまちづくりの計画・マネジメントに関する実践と 研究	ランドスケープ保全 特論
	* 栗山 武夫	保全生態学、景 観生態学	哺乳類（おもにイノシシ・アライグマ）の分布拡大や在来生態系へ の影響に関する研究	個体群生態学特論・ 野生動物管理フィールド 特別演習
	* 黒田 有寿茂	植物生態学、植 生学、保全生態 学	植物の生活史特性や生育環境特性、植生の組成・構造とその多様性 の要因、生物多様性に配慮した植物の保全や植生の管理・再生手法 などについて研究する。	植物生態学特論
	* 高木 俊	個体群生態学、 群集生態学	陸上の動物（おもに哺乳類・節足動物）を対象に、個体数や分布の 時空間的変動および生物間の相互作用のパターンとプロセスについて 研究する。	個体群生態学特論
	* 高田 知紀	合意形成学、地 域計画論、風土 論	社会的合意形成の理論と技術、市民プロジェクトの推進とそのマネ ジメント手法、風土性に根ざした地域計画および地域マネジメント	国土空間学特論
	* 高野 温子	植物分類学、送 粉生態学、	分子系統学や集団遺伝学の成果に基づく被子植物の分類体系の再整 理や再構築、また虫媒花を中心とした送粉生態学的研究を行う。	植物分類学特論
	* 高橋 鉄美	魚類学、進化生 態学	淡水魚類を中心に、その生態や形態の多様性を進化的な視点から 研究する。また、集団遺伝の手法を用いた保全に関する研究も行 う。	進化生態学特論
	田中 公教	進化古生物学、 系統分類学、形 態学	脊椎動物化石の骨格形態を定性的・定量的に分析し、地質学的タイ ムスケールで生じる絶滅動物の進化について研究する。	古脊椎動物学特論
	* 中濱 直之	保全遺伝学、保全生 態学、系統地理学、 群集生態学	絶滅危惧種の減少要因、また遺伝情報に配慮した保全手法につい て、フィールド調査や遺伝解析などの手法から研究する。	分子生態学特論
	* 廣瀬 孝太郎	地質学、古生物学、 第四紀層序学、環境 動態解析	地層中の微化石群集や化学組成を分析し、自然・人為の環境変動とそ のメカニズムを明らかにする。	地球環境進化学特論
	* 藤木 大介	森林生態学	森林生態系管理に関する研究。特に、ニホンジカが森林生態系に及 ぼしている影響の解明と森林生態系保全のための適切な管理のあり 方についての研究。	保全生態学特論
	* 森光 由樹	保全遺伝学 野生動物医学	遺伝的多様性を把握するために必要な、サンプルの収集、DNA分析お よび解析、遺伝的多様性回復の方法など実践的な手法について研究 する。	保全生態学特論
	* 山崎 健史	系統分類学、生 物地理学	主に節足動物を対象に、形態学的な観察、遺伝解析などを行い、種 の多様性を整理し、多様性が創出され維持されてきたメカニズムを 研究する。	種生物学特論
	* 山端 直人	野生動物管理 農村計画学 アクションリサーチ	獣害や担い手減少などの農業・農村の問題を改善できる社会モデル の育成や、地域が主体的に対策を持続できる仕組みづくりを研究す る。	ワイルドライフマネジメン ト特論、野生動物管理 フィールド特別演習
	* 山田 量崇	系統分類学、昆 虫学、多様性生 物学	昆虫を対象とした分類学的研究。比較形態観察に軸足を置き、形や 機能を理解した上で、系統や進化の観点から研究する。	基礎昆虫学特論
	* 横山 真弓	野生動物管理学	野生動物の健全な個体群を維持し、人との軋轢を低減するための野 生動物の保全と管理を実施するための基盤となるモニタリング手法 について演習する。	ワイルドライフマネジメン ト特論、野生動物管理フイ ールド特別演習
	* 頼末 武史	海洋生態学	海産無脊椎動物の幼生分散・着底機構に関する研究。海産外来種の 分布拡大機構に関する研究。	海洋生物生態学特論

試験会場案内図

兵庫県立大学 姫路環境人間キャンパス



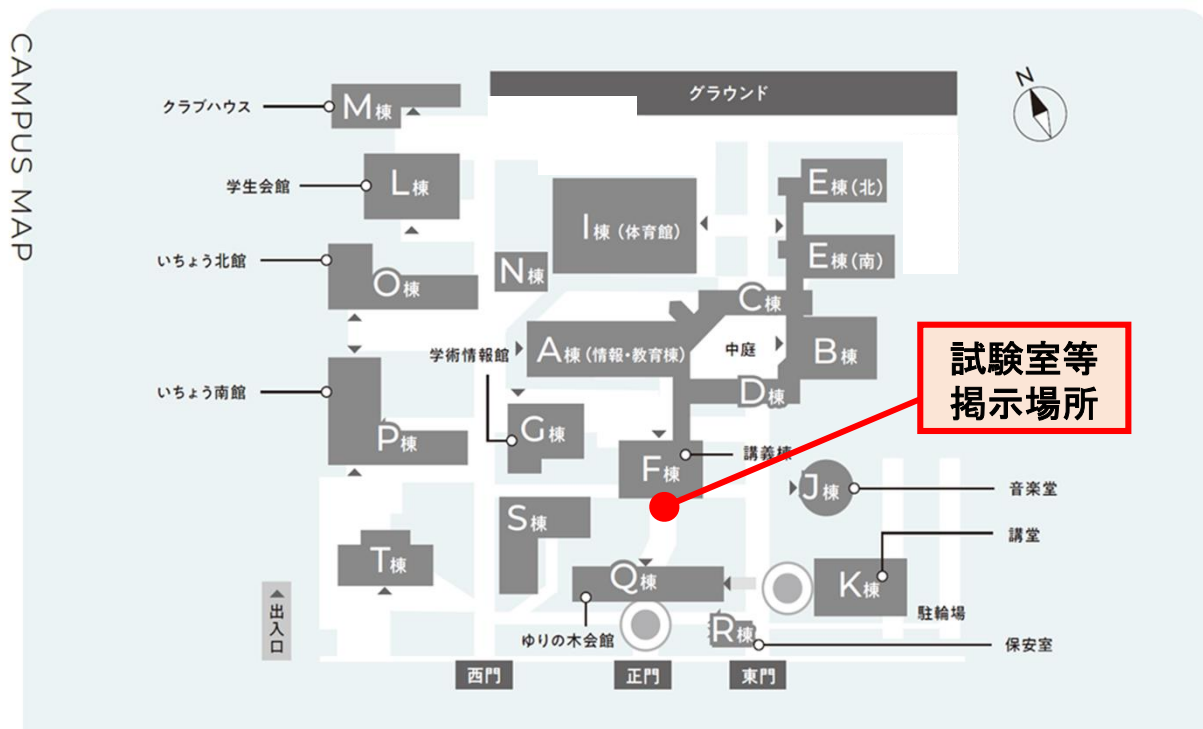
【交通】

姫路駅（JR・山陽電車）前の神姫バス9番・10番乗り場から出発するバスは全て「県立大環境人間学部」を経由します。

※バスを利用する方は、姫路工学キャンパス行きのバスに乗らないように注意してください。

※タクシーを利用する方は、「新在家の環境人間学部」と告げて、姫路工学キャンパスでないことを明確に伝えてください。

キャンパス内建物配置図



博 士 前 期 課 程

(樣 式)

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

(様式1-一般)

博士前期課程（A日程）

一般選抜入学願書

環境人間学専攻		受験番号		※			
フリガナ				性別	男女	生年月日	年 月 日
氏名							
出願資格	出身学校	大学 年 月 卒業 学部 卒業 学科 卒業見込み					
現住所		〒 TEL () 本人携帯 ()					
メールアドレス		@					
緊急連絡先	住所	〒 TEL ()				※ 入学審査料領収印	
	氏名	続柄					

※欄は、記入不要。裏面にも記入のこと。

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
博士前期課程（A日程）一般選抜

写真票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

写真貼付欄
(受験票と
同じものを貼る)

入学審査料領収印

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
博士前期課程（A日程）一般選抜

受験票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

・試験日
令和7年8月20日（水）
・試験場所
兵庫県立大学
姫路環境人間キャンパス

写真貼付欄
提出前3か月以内に撮影した写真(無帽・上半身正面)
4cm×3cm

入学審査料領収印

(裏面)

学歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月

注意

- 1 緊急連絡先の欄は、本人に必ず連絡できるものを記入すること
- 2 ※印のところは記入しないこと
- 3 黒のペン又はボールペンで丁寧に記入すること
- 4 学歴は高等学校入学時から記入すること

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

(様式1-社会人)

博士前期課程（A日程） 特別選抜（社会人）入学願書

環境人間学専攻		受験番号		※			
フリガナ				性別	男女	生年月日	年 月 日
氏名							
出願資格	出身学校	大学 年 月 卒業 学部 卒業 学科 卒業見込み					
現住所		〒 ー TEL () ー 本人携帯 () ー					
メールアドレス		@					
緊急連絡先	住所	〒 ー TEL () ー				※ 入学審査料領収印	
	氏名	続柄					

※欄は、記入不要。裏面にも記入のこと。

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
博士前期課程（A日程）特別選抜（社会人）

写真票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

写真貼付欄
(受験票と
同じものを貼る)

入学審査料領収印

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
博士前期課程（A日程）特別選抜（社会人）

受験票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

・試験日

令和7年8月20日（水）

・試験場所

兵庫県立大学
姫路環境人間キャンパス

写真貼付欄

提出前3か月
以内に撮影
した写真(無
帽・上半身
正面)
4cm×3cm

入学審査料領収印

(裏面)

学歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月

- 注意
- 1 緊急連絡先の欄は、本人に必ず連絡できるものを記入すること
 - 2 ※印のところは記入しないこと
 - 3 黒のペン又はボールペンで丁寧に記入すること
 - 4 学歴は高等学校入学時から記入すること

博士前期課程 (A日程) 特別選抜 (外国人) 入学願書

環境人間学専攻		受験番号	※			
フリガナ			性別	男女	生年月日	年 月 日
氏名						
出願資格	出身学校	大学 年 月 卒業 学部 卒業 学科 卒業見込み				
現住所		〒 TEL () 本人携帯 ()				
メールアドレス		@				
緊急連絡先	住所	〒 TEL ()				※ 入学審査料領収印
	氏名	続柄				

※欄は、記入不要。裏面にも記入のこと。

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
博士前期課程 (A日程) 特別選抜 (外国人)

写真票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

写真貼付欄
(受験票と
同じものを貼る)

入学審査料領収印

令和8年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
博士前期課程 (A日程) 特別選抜 (外国人)

受験票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

・試験日

令和7年8月20日 (水)

・試験場所

兵庫県立大学
姫路環境人間キャンパス

写真貼付欄

提出前3か月
以内に撮影
した写真(無
帽・上半身
正面)
4cm×3cm

入学審査料領収印

(裏面)

学歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月

- 注意
- 1 緊急連絡先の欄は、本人に必ず連絡できるものを記入すること
 - 2 ※印のところは記入しないこと
 - 3 黒のペン又はボールペンで丁寧に記入すること
 - 4 学歴は高等学校入学時から記入すること

共通

博士前期課程における研究計画書

氏名

研究題目

研究計画（これまでの研究内容、成果及び大学院での研究計画を2,000字程度で記述する。
なお、文中に図、表、写真を含めてもよいが、白黒印刷で鮮明に見えるように注意すること。）

(裏へ続く)

一般・外国人

承諾書

志願者氏名

上記の者が本学大学院に入学した場合、その研究指導を行うことを承諾する。

令和 年 月 日

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 環境人間学専攻

研究指導教員

印

認定（社会人）

承 諾 書

令和 年 月 日

兵庫県立大学大学院

環境人間学研究科長 様

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

研究指導教員

職・氏名

印

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科博士前期課程入学（令和8年4月入学）志願者として、下記の者を推薦し、入学した場合、その研究指導を行うことを承諾する。

志 願 者	フリガナ 氏 名 (生年月日)	昭和・平成 年 月 日生
	所属・職名	

（志願者の研究分野、素質、将来の希望等、ご意見を下欄にご記入ください。）

認定

(様式5)

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
出願資格認定審査申請書

令和 年 月 日

環境人間学研究科長 様

氏名 _____ 印 _____

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科博士前期課程の出願資格認定審査を受けたいので、必要書類を添えて申請します。

申請根拠（1 ページ「出願資格及び条件」から該当する項目を選んでください。）

記載欄

(令和8年4月入学)

フリガナ 氏 名 (生年月日 年 月 日)	現 職 現住所	
最終卒業学校名		年 月 卒業
略歴（学歴・職歴・学会及び社会における活動）		
学歴（高等学校卒業以降）		年 月 卒業
		年 月 入学
		年 月 卒業
職歴		年 月 入社
		年 月
		年 月
		年 月
		年 月
社会及び学会における活動（所属学会名等）		
賞 罰		

研究・活動報告書（その1）

志望分野		フリガナ 氏 名	
------	--	-------------	--

出願資格認定審査申告書の申請根拠に関連した研究・活動について記すこと。

研究・活動報告書（その 2）

著書・学術論文等の 題名（注）	著書名 又は発表者名	発行所、発表雑誌 又は発表学会等の名称	巻、号、頁 （年）又は発表 の年月

（注）学会雑誌、学会発表（研究会）、社内報告/技術レポート、特許/実用新案、業界紙（商業誌）、製品報告（製品紹介）等があれば記入してください。

認 定

研究・活動内容確認書

申請者氏名

上記の者の研究・活動内容について、確認しました。

令和 年 月 日

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 環境人間学専攻

研究指導教員

印

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

<http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html>

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1丁目1番12号

TEL (079) 292-1513(学務課直通) FAX (079) 292-1530